

## 各都道府県における山や森の記念日（期間）等の 実施状況と一般市民の意識

市川 貴大<sup>1)</sup>

### Status of implementation of the memorial day and term on mountain and forest by Japanese prefectures, and opinion of mountain day among citizens

Takahiro ICHIKAWA<sup>1)</sup>

**Keywords :** environmental conservation activities, forest day, memorial day, mountain day, prefectures

#### 1. はじめに

山岳は、古来から農耕、狩猟、漁撈といった生業の差異を越えて、住民から自然崇拜の対象となり、また、山の神がいる霊地として崇拜されてきた<sup>1) 2)</sup>。また、山の神は春になると平地（里）へと下ってきて田の神となり、秋にはまた山へ帰り山の神に戻るといわれており、そのことは、わが国では以前から山と田が接しており、田を耕作する里人が日常的に山に入り、山地の産物を持ち出すという里と山地の交流が頻繁だったことを示していた<sup>3)</sup>。しかし、1960年代以降、燃料、肥料革命が広がるとともに、円高の定着や貿易自由化などの影響により里と山地の関連性が希薄化した<sup>4)</sup>。また、高度経済成長期以降、農山村地域、特に中山間地域では、過疎化や農林地の荒廃、集落機能の脆弱化が進行しているとともに、地域の人々が地域に住み続ける意味や誇りを喪失しつつある<sup>5) 6)</sup>。

森林では、木材生産のほかに、水源涵養や生物多様性の保全、防災や保健・教育・文化などといった公益的機能を有し<sup>7)</sup>、農業・農

村では食料保障や国土保全、環境保全、景観形成、生物多様性の保全、社会的・文化的価値の継承などといった多面的機能を有している<sup>8) 9)</sup>。すなわち、里では食料保障、山地では木材生産が主に行われることにより、水源涵養や国土保全、生物多様性の保全、社会的・文化的価値の継承などの様々な機能もあわせて形成されている。したがって、農山村地域では過疎化や農林地の荒廃の進行等により、食料保障、木材生産のみならず、公益的・多面的機能も低下しつつある状況であるといっても過言ではない。

このような危機的な状況の中、1980年代から林道や湿原の開発計画に対する自然保護運動をかわきりに、富山県の草刈り十字軍、北海道や宮城県の漁民による森づくり活動、山梨県と神奈川県桂川・相模川流域ネットワークなどといった山地を対象とした森林支援活動が行われ、里においても1980年代から雑木林や人工林、竹林、田畑、溜池などをセットにした保全活動が展開されるようになった<sup>10) 11) 12)</sup>。

1) とちぎ農林倶楽部  
〒329-2161 矢板市扇町2-12-74

1) Tochigi Agroforestry Club  
2-12-74, Ougicho, Yaita (329-2161)

現在では保全活動を推進すべく、行政をはじめ、各種法人、任意団体、大学、協会などの様々な団体により農林業ボランティアの育成のための研修や実習がおこなわれており<sup>13)</sup>、特に各都道府県では一般住民を対象とした森林や里山、その他の緑地等でのボランティアを育成するための研修や実習が精力的におこなわれている<sup>14)</sup>。また、和歌山県では、全国に先がけて森林・山村づくりの重要性を県民に認識してもらうことを目的に、1994年に山の神をまつり、山の恵みに感謝するとともに山仕事の無事と山の繁栄を祈願する山祭りが行われている11月7日を「紀州・山の日」に定めた。「紀州・山の日」では、記念イベントの開催をはじめ、作品コンクール、啓発普及、県内各地域での関連イベントなどを実施していた(2012年5月28日に取組終了)<sup>15)</sup>。現在では、千葉県では「里山の日」<sup>16)</sup>、大阪府では「おおさか山の日」<sup>17)</sup>、広島県では「ひろしま「山の日」」<sup>18)</sup>などがおこなわれている。そこで活動するボランティアに関して、その活動継続には無形と有形の誘因があり、有形の誘因として交流会や講習会の開催、感謝状や表彰などといった象徴的な報酬により諸団体の活動にひきつけ続けることが重要である<sup>19)</sup>ことから、「山の日」等といった記念日を制定し、各種イベント等を実施していることはボランティアの活動継続の上でも有効であると考えられる。

近年、「海の日」と対をなす国民の祝日「山の日」を制定しようという動きがある<sup>20)</sup><sup>21)</sup><sup>22)</sup><sup>23)</sup>。「山の日」の制定については、国連の定めた国際山岳年である2002年に議論されたものの、その議論はその場限りであった<sup>22)</sup><sup>26)</sup>。しかし、2010年4月26日、日本の山岳5団体(日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳会、日本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤンアドベンチャートラスト)が「山の日」制定協議会を結成し、その制定に向けて山の文化や美しく豊かな自然を守り、次世

代に引き継ぐといった趣旨に沿った各種イベントやリーフレット「山を考える」の作成配布をおこない<sup>25)</sup>、2012年10月には「山の日」ネットワーク東京会議を開催した<sup>26)</sup>。「山の日」ネットワーク東京会議の開催を皮切りに、各地でも「山の日」制定運動が活発化してきており、2013年4月には超党派の国会議員による「山の日」制定議員連盟も設立された<sup>27)</sup><sup>28)</sup>。「山の日」の意義については様々な議論があったが、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という言葉に集約されるに至っている。ところで、「山の日」について、国際山岳年や国際森林年などといった国際的な視点で論じられた報告はある<sup>22)</sup><sup>23)</sup>ものの、国内での取組については市川<sup>29)</sup>による報告しかみられない。

わが国では古来より山岳信仰が発展し、山岳を基にした様々な文化、医療、習俗等および自然保護の精神を形成し、成人(元服)登山といわれる習俗がおこなわれるとともに、明治以降も学校登山としておこなわれている<sup>30)</sup><sup>31)</sup><sup>32)</sup>。また、近年では中高年や山ガールといわれるように毎年多くの方が登山されている<sup>23)</sup><sup>33)</sup>一方で、遭難の多発や登山道の荒廃を招いている<sup>33)</sup>。「山の日」の制定は登山者数の増加等といった観光振興の一面をもちあわせていることから、今後は特に登山道のこまめな維持管理の重要性が増すものと考えられる。すなわち、わが国では古来より登山をとおして野外教育が実施されていたことにはほかならないばかりか、野外教育のフィールドとしての登山道の維持管理など、「山の日」を考えることは、今後の野外教育の発展に寄与するものと考えられる。

こうした背景をもって、各都道府県が実施している山や森等に関する記念日や期間(以下、記念日(期間)等と称する)を把握することを目的に、各都道府県や関係団体等での取組について調査することにした。また、「山の日」を制定しようという動きはあるも

の、一般市民がどの程度認知しているのか、あるいは、賛同の有無等についても把握された報告はみられない。そこで、栃木県内にて「山の日」制定に関するアンケート調査を実施したので、その調査結果もあわせて報告する。

## 2. 調査方法

### 2.1. 記念日（期間）等の実施状況

#### 2.1.1. 各都道府県担当者への調査

調査期間は、2013年2月～5月であった。調査対象は、各都道府県の山の日および森林環境税、森林ボランティア等の担当部局である。調査内容は、記念日（期間）等に関する名称、日程、制定年月日、趣旨（目的）、イベント内容、テーマ（キャッチフレーズ）、条例の有無、森林環境税の実施、森林環境税との連携、民間との連携、行政の関与、推進体、意見書の提出と今後の取組、市町村等での記念日、ホームページアドレスについてであった。調査方法は、すべての都道府県あて、2011年に回答をいただいた都道府県担当者および担当部局に、2011年の回答<sup>29)</sup>をまとめたエクセルファイル表を電子メールにて送付し、データの更新を依頼した。なお、2011年、2013年ともにすべての都道府県から回答が得られた。

#### 2.1.2. 都道府県をまたぐ実施主体への調査

調査期間は2011年2月～5月であった。インターネットの検索エンジン（yahoo、検索語は山の日）にて検索した結果、「四国山の日」の事務局である四国森林管理局（高知県高知市、森林整備・木材利用・森林環境教育活動の推進）および「登山の日」を制定した日本アルパインガイド協会（東京都八王子市、自然環境保護活動、正しい登山技術の普及、登山知識の指導等）を調査対象とした。調査内容は、実施主体名、名称、日程、制定年月日、趣旨（目的）、イベント内容、ホームペ

ージアドレスとし、調査内容について直接データ入力可能なエクセルファイル表を電子メールにて送付した。

### 2.1.3. インターネット検索による市町村での記念日（期間）等の調査

調査日は、2013年10月13日であった。調査対象は、市町村での山や森の記念日（期間）等である。調査内容は、実施市町村名、記念日（期間）等の名称、日程、実施主体である。調査方法は、インターネットの検索エンジン（yahoo、検索語は山の日と森の日、期間等である）を活用した。なお、市町村での山や森の期間等は2011年での各都道府県への調査時に回答がなく、インターネットでも検索できなかった。

## 2.2. 一般市民の記念日への意識

調査期間は、2011年5月～2013年8月であった。調査対象は、筆者が主催、共催、協力、または講演した環境保全に関するイベントへの参加者とした（表-1）。調査内容は、「山の日」の制定へ向けた運動の認知度、「山の日」の連想する内容、国民の祝日として「山の日」の制定に向けた運動への賛同の有無、山を保全する環境保全活動への参加の有無とした。「山の日」の連想する内容の選択項目には、2011年にとりまとめた記念日（期間）等の趣旨内容から、森づくり、国土保全、登山、次世代への継承、水源涵養、温暖化防止、景観、地域活性化、その他とした。なお、2013年に再度記念日（期間）等の趣旨内容を取りまとめたところ、上記の趣旨内

表-1. 「山の日」に関するアンケートの対象

イベント名	開催地	年月	配布数	回収数*	回収率(%)
① 高原山開き	塩谷町	2011.5	33	33	100
② 宇都宮大学里山科学論議	宇都宮市	2011.6	23	23	100
③ くまの木里山応援団座談会	塩谷町	2012.2	35	20	57
④ 生物多様性普及啓発講座	宇都宮市	2013.1	120	60	50
⑤ 鹿沼自然環境共生会設立総会	鹿沼市	2013.3	30	26	87
⑥ ふるさと高原山を愛する集い	塩谷町	2013.5	500	227	45
⑦ しおやの高原山10景の提示	塩谷町	2013.8	50	50	100
合計			791	439	55

注) \* 回収数および有効回収数

①～⑦はアンケート用紙を参加者に配布し、回収した

⑧は会場入口にアンケート用紙を置いておき、任意で回収した

容のほかに自然環境も考慮すべきと考えられた(図-4参照)。このことから、2013年5月と8月の調査では、新たに自然環境を選択項目に追加した。調査方法は、参加者にアンケート用紙(図-1)を配布し、回収した。

**「山の日」に関するアンケートのお願い**

最も該当することについて、○をご記入ください。

Q1 「山の日」の制定へ向けた運動をご存知ですか？  
 A: 知っている B: 知らない  
 ↳ Aの方は何で知りましたか  
 A: 新聞 B: テレビ C: 口コミ D: その他

Q2 「山の日」と聞いて、どんな内容を連想されますか？  
 (複数回答)  
 A: 森づくり B: 水源涵養 C: 国土保全 D: 温暖化防止  
 E: 自然環境 F: 景観 G: 地域活性化 H: 次世代への継承 I: 登山 J: その他( )

Q3 国民の祝日としての「山の日」の制定に向けた運動について  
 A: 賛同する B: どちらかといえば賛同する  
 C: どちらでもない D: どちらかといえば賛同しない  
 E: 賛同しない

Q4 山を保全する環境保全活動について  
 A: 参加したい B: どちらかといえば参加したい  
 C: どちらでもない D: どちらかといえば参加したくない  
 E: 参加したくない

Q5 ふるさと高原山を愛する集いに参加した感想は？  
 A: 良かった B: どちらかといえば良かった  
 C: どちらでもない D: どちらかといえば良くなかった  
 E: 良くなかった

住所(市町村名)	年齢(年代)	性別
----------	--------	----

ご協力ありがとうございました！  
 ふるさと高原山を愛する集い実行委員会・とちぎ農林倶楽部

図-1. アンケートの内容

注) Q2は2013年の調査実施後、記念日等の趣旨内容に自然環境がうたわれていたことから追加した

### 3. 結果と考察

#### 3.1. 記念日(期間)等の実施状況

##### 3.1.1. 都道府県が実施している記念日(期間)等の概要

都道府県が実施している記念日(期間)等の名称を表-2に示す。山の日は11府県(制定数は12)、森の日は14県、山や森の期間等は10府県、なしは17都道府県(表-2の備考を考慮しない場合)であった。記念日(期間)等のない都道府県においても、神奈川県、富山県のように県議会で記念日の制定を検討したものの実現しなかった県があることや、林野庁が2005年から展開している木づかい推進月間<sup>34)</sup>と連動してイベント等を開催した

り、森林ボランティアを育成するための研修や実習等の実施<sup>14)</sup>など、山や森の記念日(期間)等に関わる活動が展開されている。各都道府県が実施している森林ボランティアを育成するための研修や実習等については41都道府県で実施されており<sup>14)</sup>、都道府県が実施している記念日(期間)等は森林ボランティアを育成するための研修や実習等よりも11都道府県少なく(実施率64%)、特に東北、関東地方で実施されていない傾向がみられた。また、山の日については、四国3県独自での実施のほかに、四国四県と四国森林管理局で「四国山の日」が実施されており、森の日についても、九州全県で実施されているのが特徴である。四国や九州での取組みには、国の出先機関である森林管理局の関与がみられることから、取組みの少ない東北、関東地方においては今後森林管理局の関与の仕方次第で記念日(期間)等の実施の有無が左右されると推察された。和歌山県の「紀州・山の日」は平成24年5月28日で取組みが終了した。このことから、都道府県での取組みではある程度の期間が経過すると見直しや終了する可能性が示唆された。

都道府県が実施している記念日(期間)等の月別実施数を図-2に示す。月別実施数は11月では13県(全体の36%)、10月では12県(全体の33%)と多く、10~11月で全体の約7割を占めていた。11月では、山の日、森の日で最も多く、四国3県および九州の全県で取組まれていることが影響している。10月では山や森の期間等が最も多く、林野庁が展開している木づかい推進月間は10月である<sup>34)</sup>ことから、木づかい推進月間と連携して取組まれていることが推察される。

都道府県が実施している記念日(期間)等と森林環境税の制定年と取組数を図-3に示す。制定年は2008年では10県(全体の27%)、2005年、2006年で5県(全体の14%)であった。山の日については、2000

年以前から2012年にかけて1～2府県ずつ制定されている。森の日は2008年に8県と最も多く制定されており、内7県は九州各県である。山や森の期間等は2005、2006年が3県と最も多く制定されている。木材の利用を

推進することで、林業および木材産業の活性化のみならず、森林の多面的機能の発揮や地球温暖化対策の推進、資源循環型社会の形成に貢献することを目的とした林野庁の木づかい推進月間<sup>34)</sup>も2005年4月に制定されてい

表-2. 記念日（期間）等の名称

	山の日	森の日	山や森の期間等	備考
秋田	-	-	水と緑の月間	-
山形	-	やまがた森の日	-	-
栃木	-	元気な森づくりの日	-	-
群馬	馬ぐま山の日	-	ぐんま山と森の月間	-
千葉	葉里山の日	-	-	-
神奈川	-	-	-	県議会で検討も反映なし
富山	-	-	-	県議会で検討も反映なし
石川	-	-	いしかわの森づくり推進月間	-
福井	-	福井県森づくりの日	-	-
山梨	やまなし山の日 富士山の日	-	-	-
長野	-	-	ふるさとの森づくり県民運動 推進強調月間	-
岐阜	早ぎふ山の日	-	ぎふの山に親しむ月間	-
静岡	岡富士山の日	-	-	-
三重	-	-	三重の森づくり月間	-
滋賀	-	びわ湖水源のもりの日	びわ湖水源のもりづくり月間	-
大阪	おおさか「山の日」	-	山に親しむ推進月間	-
兵庫	-	ひょうご森の日	-	-
奈良	奈良県山の日・川の日	-	-	-
和歌山	-	-	-	紀州・山の日は2012年5月28日で終了
鳥取	-	-	とっとり森林月間	-
島根	-	森の誕生日	-	-
広島	ひろしま「山の日」	-	-	-
山口	-	やまぐち森林づくりの日	-	-
徳島	-	-	-	-
香川	かがわ山の日	-	-	2004年から四国山の日 <sup>*</sup> を4県もちまわりで実施
愛媛	えひめ山の日	-	-	
高知	こうち山の日	-	-	
福岡	-	九州森林(もり)の日	-	
佐賀	-	九州森林(もり)の日	-	
長崎	-	九州森林(もり)の日	-	
熊本	-	くまもと森づくり活動の日	-	2008年から九州森林の日 <sup>*</sup> として各県にて実施
大分	-	九州森林(もり)の日	-	
宮崎	-	九州森林(もり)の日	森林づくり推進期間	
鹿児島	-	九州森林(もり)の日	-	
計	12	14	10	

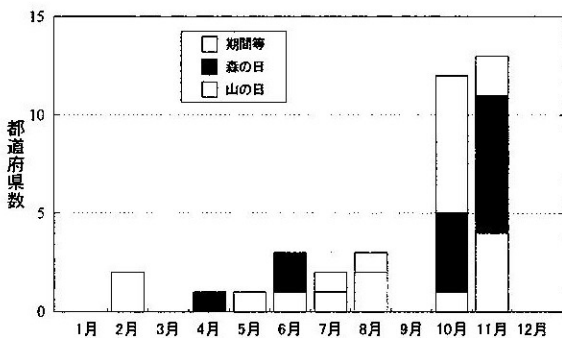


図-2. 記念日（期間）等の月別実施数

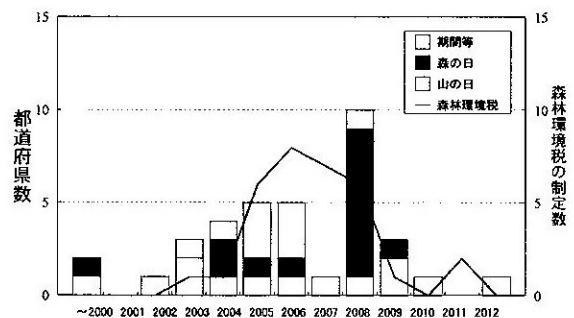


図-3. 記念日（期間）等と森林環境税の制定年と取組数

る。山や森の期間等と木づかい推進月間<sup>34)</sup>は、林業や木材産業の活性化、森林の多面的機能の維持増進などといった共通の目的を有していることから、山や森の期間等の制定は林野庁の木づかい推進月間<sup>34)</sup>の制定の影響を受けていると推察された。

都道府県が実施している記念日（期間）等の趣旨内容を図-4に示す。趣旨に示された内容から、森づくり、水源涵養、国土保全、温暖化防止、自然環境、景観、地域活性化、次世代への継承というキーワードを抽出し、とりまとめた。森づくりについては、山の日、森の日、山や森の期間等のほとんどにおいて示されていた（全体の97%）。森づくりにつづいて、水源涵養（全体の39%）や国土保全（全体の36%）、次世代への継承（全体の33%）、温暖化防止（全体の28%）、地域活性化（全体の22%）、景観（全体の11%）、自然環境（全体の8%）の順に示されていることがわかった。山の日については、森の日や山や森の期間等に比べると趣旨内容が多い傾向にあり、次世代への継承についてが約8割と示されているのが特徴的であった。2011年の調査<sup>29)</sup>に比べると、森の日や山や森の期間等では概ね同様であったが、山の日では次世代への継承が幅広くうたわれるようになり、水源涵養については減少していた。このことは、各都道府県において趣旨内容を見直していることや和歌山県での「紀州・山の日」の取組終了、山梨県での「富士山の日」

の制定、徳島県担当者の回答変更など、山の日については時流とともに変化していることを示している。

### 3.1.2. 都道府県が実施している記念日（期間）等の内容

都道府県が実施している記念日（期間）等のイベント内容を図-5に示す。各都道府県の回答から、森づくり、集会・式典等、コンテスト、啓発普及、支援事業の5つに分類し、とりまとめた。森づくりでは全体の89%、啓発普及では全体の53%、集会・式典等では全体の44%、コンテストでは全体の11%、支援事業では全体の6%であった。山の日と山や森の期間等については、森づくりや集会・式典等、啓発普及が半数以上で実施されている。森の日では森づくりはすべての県で実施されており、啓発普及は半数の実施であり、集会・式典等は約3割にとどまっていた。森の日では森づくりは山の日と山や森の期間等に比べて重要視されていることがわかる。

都道府県が実施している記念日（期間）等のテーマ、条例、森林環境税との連携、民間との連携を表-3に示す。テーマ、条例、森林環境税との連携、民間との連携について過半数以上の取組がみられるのは、山の日ではテーマ（全体の50%）、民間との連携（全体の58%）、森の日では森林環境税との連携（全体の71%）、民間との連携（全体の71%）、山や森の期間等では条例制定（全体の60%）、森林環境税との連携（全体の60%）、

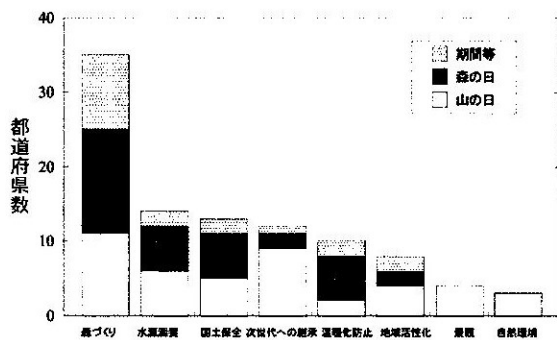


図-4. 記念日（期間）等の趣旨内容

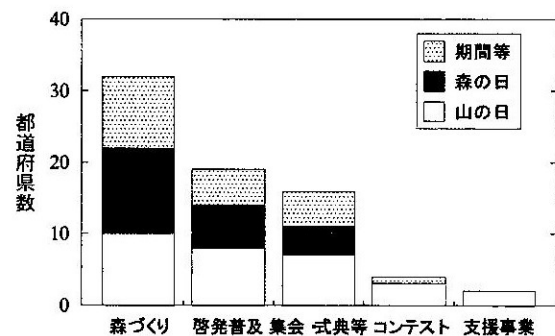


図-5. 記念日（期間）等のイベント内容

表-3. 記念日（期間）等のテーマ、条例、森林環境税との連携、民間との連携

	テーマ(キャッチフレーズ)	条例制定	森林環境税実施	森林環境税との連携	民間との連携
山の日	6(50%)	5(42%)	8(67%)	4(33%)	7(58%)
森の日	1(7%)	2(14%)	13(93%)	10(71%)	10(71%)
山や森の期間等	4(40%)	6(60%)	7(70%)	6(60%)	8(80%)

注) カッコ内は都道府県での取組数で除した割合

民間との連携（全体の80%）である。山の日ではテーマをきめ、山や森の期間等では条例を制定する傾向にあった。森の日では、森林環境税の実施が福井県を除く13県で実施されており、森林環境税との連携も山の日や、山や森の期間等に比べ多く行われていた。森林環境税は2003年に高知県にて導入されて以降、2012年現在33県にて実施され<sup>35)</sup>、群馬県でも2014年に導入予定となるなど、各府県で導入が進んでおり、2005～2008年にかけて導入される県が多かった（図-3）。山や森の期間等も2003年に秋田県で制定されて以降、2005～2006年に導入される県が多く、森林環境税の導入の時期の傾向と類似していた。そこで、都道府県が実施している記念日（期間）等と森林環境税の制定年の関係を検討したところ、山や森の期間等と森林環境税の制定年において、有意な相関がみられた（ $r=0.805$ ； $p<0.01$ ）。したがって、山や森の期間等の制定は、森林環境税の制定による影響を少なからずうけていると考えられた。民間との連携は、記念日（期間）等でそれぞれ半数以上の県で実施され、特に山や森の期間等では2011年では全体の60%であったが、2013年には全体の80%となり、2割増加となっている。このことから、一般財源が確保できない場合は、民間との連携が活動展開に必要なといえる。

都道府県が実施している記念日（期間）等の行政の関与と推進体制を図-6、7に示す。行政の関与は直営が全体の78%、補助が全体の33%で、委託は高知県のみであり、山

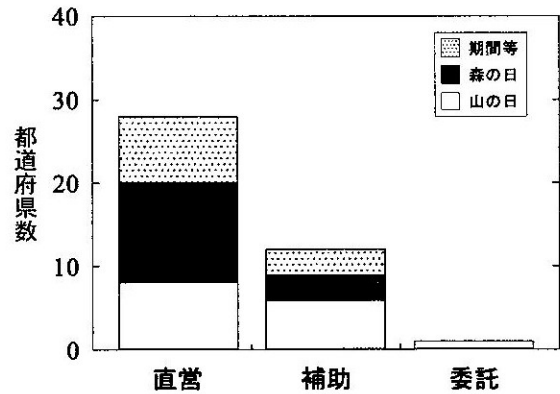


図-6. 記念日（期間）等の行政の関与

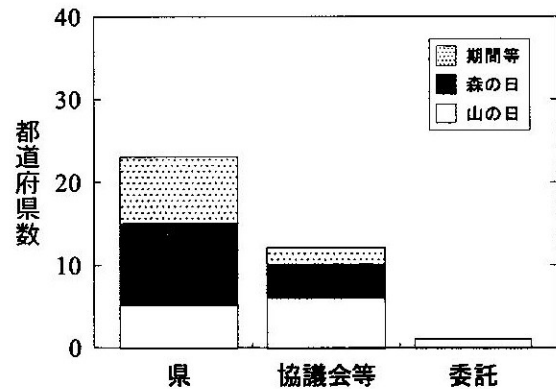


図-7. 記念日（期間）等の推進体制

の日では直営で67%、補助で50%、森の日では直営で86%、補助で21%、山や森の期間等では直営で80%、補助で30%であった。推進体制は府県で全体の64%、協議会等で全体の33%、委託は高知県のみであり、山の日では府県で42%、協議会等で50%、森の日および山や森の期間等では府県でそれぞれ71%、80%、協議会等でそれぞれ29%、20%であった。山の日では推進体制は協議会等が最も多く、府県は直営や補助で対応しており、森の日および山や森の期間等では概

ね府県が主体となり、直営で行っている傾向がみられた。

### 3.1.3. 市町村での記念日（期間）等

各都道府県担当者への調査およびインターネット検索による調査から把握した市町村での記念日（期間）等を表-4に示す。市町村での記念日（期間）等は北海道札幌市、岩手県岩泉町、山梨県富士河口湖町、長野県松川村、京都府宇治田原町、愛媛県内子町、佐賀県鹿島町で行われていることがわかった。市町村での山や森に関する記念日（期間）等の制定はこの他にもあると考えられるが、例えば静岡県静岡市で行われていた森の日の取組も1年で終了するなど、市町村単独での取組には限界があるといえる。

表-4. 市町村での記念日（期間）等について

市町村	記念日の名称	日程	備考
北海道札幌市	藻岩山の日	5月31日	藻岩山魅力アップ推進協議会
岩手県岩泉町	森の日	6月第2日曜日	森の日事業実行委員会
山梨県富士河口湖町	富士山の日	2月23日	富士河口湖町
長野県松川村	安曇野松川村山の日	5月第3土曜日	松川村
京都府宇治田原町	山の日のつどい	3月下旬	山の活用を考える会事務局
愛媛県内子町	小田深山さんの森の日	5月15日(2011年)	小田深山さんの森の日実行委員会
佐賀県鹿島町	鹿島市山の日	3月21日	鹿島市農林水産課

\*. 市町村での取組みを把握していない都道府県もある。また、期間等は2011年での各都道府県への調査時に回答がなく、インターネットでも検索できなかった。

3.1.4. 都道府県をまたぐ記念日（週間）等  
都道府県をまたぐ記念日（期間）等について表-5に示す。

四国林政連絡協議会（徳島県、香川県、愛媛県、高知県、四国森林管理局）と四国の森づくりネットワークは2004年11月に制定された「四国山の日」にちなみ、毎年各県持ち

回りにてイベントや表彰を行っている。

日本アルパインガイド協会は1991年に10月3日を登山の日に制定し、祝日化に向けた運動を行っていたが、近年は活動を休止している。

### 3.2. 一般市民の記念日への意識

アンケートの配布数は791枚、回収および有効回答数は439枚、回収率は55%であった。回答者の性別は男性が全体の56%、女性が全体の44%であった。年代は60代が全体の40%、70代が全体の28%で、50~70代で約8割を占めていた。住所は塩谷町が全体の34%、宇都宮市が全体の19%、矢板市が全体の11%、鹿沼市が全体の9%で、概ね塩谷町とその周辺市町の住民であった。

「山の日」に関するアンケート結果を図-8に示す。

Q1の「山の日」の制定へ向けた運動については、知っているが全体の58%、知らないが全体の42%であった。ふるさと高原山を愛する集いは塩谷町出身の作曲家船村徹氏を招いて、「山の日」とふるさととの山である高原山について考える集会であったことから、他のイベントに比べて知っている人が多く参加していた。今後はさらに知らない人々に「山の日」制定の意義を伝えるようにしていく必要がある。

Q2の「山の日」と聞いて、どんな内容を連想されるかについては、自然環境を項目に入れない場合は、森づくり>国土保全、登山、水源涵養、自然環境を項目に入れた場合は、自然環境>水源涵養、森づくりの順に多かつ

表-5. 都道府県をまたぐ山の日に関連する記念日（期間）等

実施主体	記念日の名称	日程	制定年月	備考
四国林政連絡協議会(四国4県と四国森林管理局)、四国の森づくりネットワーク	四国山の日	毎年11月11日を基準に開催日を決定(開催県が決定)	2004年11月	森づくり活動、シンポジウム、団体交流会等、「四国山の日賞」の表彰、各県の森づくりに関する協定の披露、表彰等
日本アルパインガイド協会	登山の日	10月3日	1991年(日本記念日協会1995年認定)	(活動休止中)



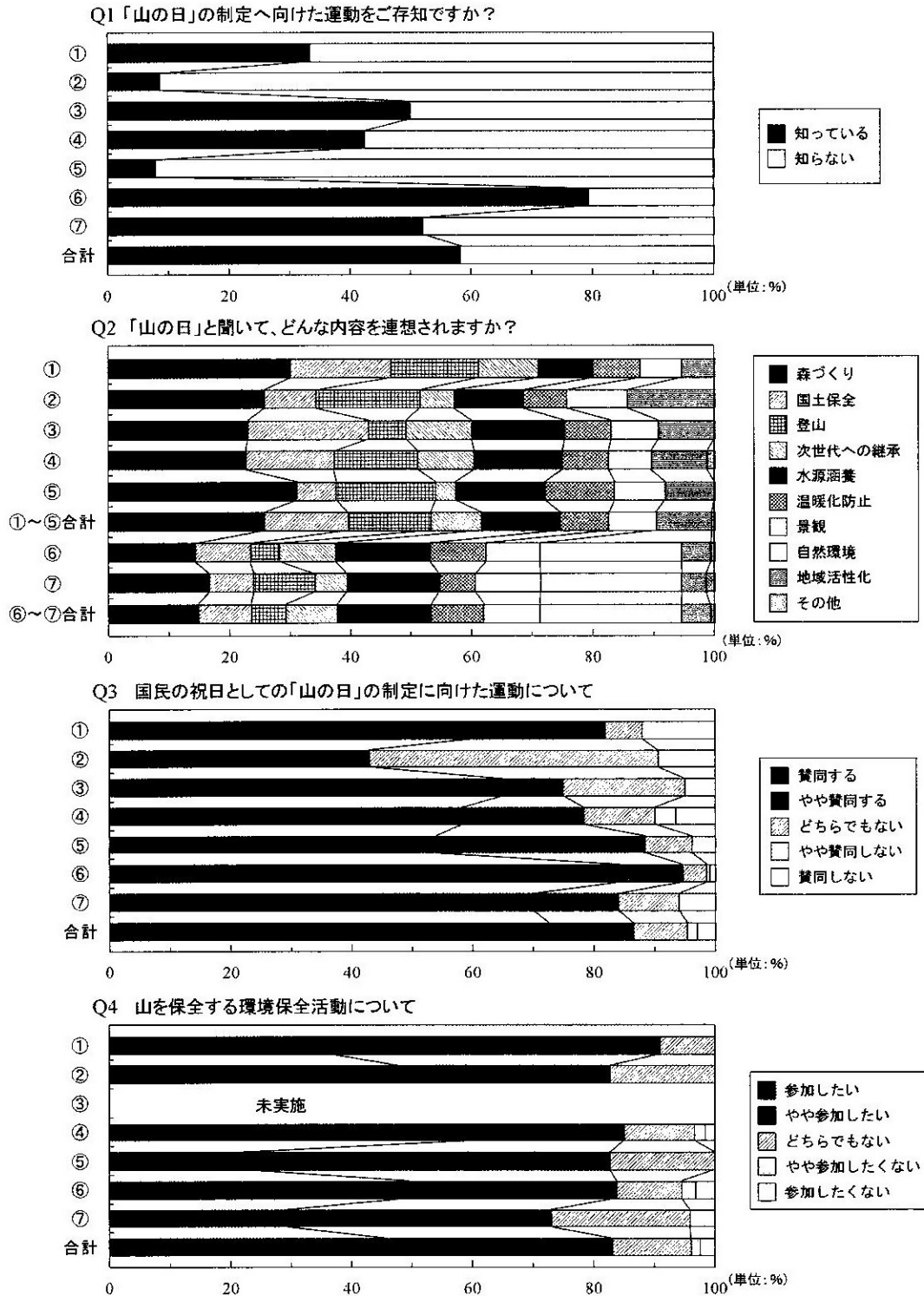


図-8. 「山の日」に関するアンケート結果

Q2について、自然環境の項目を⑥、⑦で追加した。Q4の③は未実施。①～⑤合計はn=162、⑥～⑦合計はn=277、①～⑦合計はn=439。

た。特に自然環境は回答者の約7割を占めているなど、「山の日」のイメージは登山というよりはむしろ自然環境としてのイメージでとらえられていることがわかった。

Q3の国民の休日としての「山の日」の制定に向けた運動については、賛同する、どちらかといえば賛同するが全体の87%を占めていた。どちらかといえば賛同しない、賛同

しないはそれぞれ全体の2%、3%と1割未満であった。「山の日」の制定の認知度にかかわらず、ほとんどの方が賛同していることから、基本的には国民から賛同が得られやすいのではと推察された。ただし、休日が多すぎるといったコメントがあることから、制定にあたっては丁寧な説明が必要である。

Q4の山を保全する環境保全活動については、参加する、どちらかといえば参加するが全体の83%であり、どちらかといえば参加したくない、参加したくないがそれぞれ1%、2%と1割未満であった。参加したくない理由として、高齢や足腰が不自由のためが挙げられていたことから、多くの方々は山を保全する環境保全活動に前向きであることがわかった。

#### 4. まとめ

都道府県が実施している山や森に関する記念日（期間）を調査した結果、2013年5月現在、山の日は11府県（制定数は12）、森の日は14県、山や森の期間等は10府県、なしは17都道府県であることが明らかとなった。また、10～11月に約7割が実施され、主に森づくりや啓発普及がおこなわれている。趣旨内容は森づくりや水源涵養、国土保全、次世代への継承などがうたわれている。推進体制は山の日協議会が、森の日および山や森の期間等は県が主体となっており、山や森の期間等の制定については森林環境税や木づかい推進月間の制定による影響をうけていると考えられた。

一方、市町村での山や森に関する記念日（期間）等の制定は積極的に行われていないのが現状である。むしろ、近年では都道府県が連携して国に対して要望する取組が活発化しており、森林の公益的機能拡充推進協議会をはじめ、関東地方知事会や中部圏知事会は国に対して「山の日」の制定と祝日化を要望した。また、「山の日」制定協議会は2010年

4月に「山の日」の制定を目指して山岳5団体を主体に組織化され、2012年10月に開催された「山の日」ネットワーク東京会議を皮切りに、超党派の国会議員による「山の日」制定議員連盟の設立への寄与や全国「山の日」制定協議会への発展的解消など、「山の日」の祝日制定を国民運動とすべく積極的に取り組んでいる。これまでの「山の日」に関連する動向については市川<sup>36)</sup>にとりまとめた。

一般市民に対する「山の日」のアンケート結果によると、「山の日」のイメージは登山というよりはむしろ自然環境としてのイメージでとらえられており、「山の日」制定へ向けた運動や山を保全する環境保全活動については約9割が前向きであった。「山の日」を制定することはボランティアの活動継続の有形の要因となることから、山を保全する環境保全活動を継続する上でも有効であると考えられる。一方、「山の日」制定へ向けた運動や山を保全する環境保全活動について、1割未満であるが、仕事上や体の不自由などの課題も抱えられている方もいることから、「山の日」制定にあたっては国民に丁寧な説明が必要である。今回のアンケートは栃木県内にて行われたが、今後は全国で実施されることが望ましい。

超党派の国会議員による「山の日」制定議員連盟は8月11日を「山の日」に制定する祝日法改正案について、「山の日」の意義を「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」と定めた<sup>37) 38)</sup>。わが国の登山道では一部の有名な山への登山者が集中し、侵食や植生破壊の拡大といった問題が生じている。一方で、旧来からの信仰、狩猟、山菜採取などで利用されてきた自然発生的な山道はササや雑草木が繁茂し、わかりにくくなっている<sup>40)</sup>。「山の日」の制定を契機に、全国各地にて森づくり活動や登山道整備などといった環境保全活動がより積極的に行われ、かつ、支援されるようになることが重要である。

## 謝辞

各都道府県や、国、関係団体の皆様をはじめ、環境保全に関するイベント参加者のアンケート回答者の皆様に厚く御礼申し上げます。

## 注および引用文献

- 1) 鎌田茂雄 (1987)：山岳信仰 心身を清める、集英社、東京。
- 2) 鈴木正崇 (1991)：山と神と人—山岳信仰と修験道の世界—、淡交社、京都。
- 3) 有岡利幸 (2004)：里山Ⅱ、法政大学出版社、東京。
- 4) 恒川篤史 (2001)：里山の変遷と現状、里山の環境学 (武内和彦・鷲谷いづみ・恒川篤史編)、東京大学出版会、東京、39-50。
- 5) 守友裕一 (2006)：内発的発展と農村の再生—一日英比較を通じて、地域産業の再生と雇用、人材 (下平尾勲・伊東維年・柳井雅也編)、日本評論社、東京、243-269。
- 6) 小田切徳美 (2009)：農山村再生「限界集落」問題を越えて、岩波書店、東京。
- 7) 全国林業改良普及協会 (1998)：林業技術ハンドブック、全国林業改良普及協会、東京。
- 8) 木村和弘 (2003)：中山間地域での新たな期待、改訂農村計画学 (農業土木学会編)、農業土木学会、東京、222-228。
- 9) 日本学術会議 (2001)：地球環境人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について (答申)、日本学術会議、東京。
- 10) 畠山重篤 (2006)：森は海の恋人、文藝春秋、東京。
- 11) 中川重年 (2001)：里山を守る新しい試み、里山の環境学 (武内和彦・鷲谷いづみ・恒川篤史編)、東京大学出版会、東京、124-135。
- 12) 山本信次 (2007)：市民参加による森林保全活動と森林教育—森林ボランティアを中心に—、森林科学、第49号、15-18。
- 13) 市川貴大 (2011)：しもつけの心 里山保全活動へのいざない①～⑩、井上総合印刷、宇都

宮。

- 14) 市川貴大 (2009)：都道府県による一般住民が対象の森林ボランティアを育成するための研修や実習等の把握、野外教育研究、第12号、35-43。
- 15) 和歌山県 (1997)：十一月七日は「紀州・山の日」本年も多彩な“記念事業”を実施、林野時報、第44号、42-44。
- 16) 石井健雄 (2003)：さわやかな第54回全国植樹祭・千葉県で開催—里山条例を施行、5月18日を「里山の日」に一、グリーン・エージ、第30号、50-52。
- 17) 大阪府 2006：おおさか「山の日」を中心とした市民協賛の森づくりの推進、林野時報、第53号、10-13。
- 18) 畠崎辰登 (2011)：“酒のまち”西条の美しい故郷づくり—多様な主体による山と水の保全活動—、地域づくり、第259号、26-27。
- 19) 桜井政成 (2007)：ボランティアマネジメント—自発的行動の組織化戦略—、ミネルヴァ書房、京都。
- 20) 船村 徹 (2008)：「山の日」をつくろう、下野新聞 (2008年9月7日)。
- 21) 船村 徹 (2010)：愛郷無双「山の日」制定を、下野新聞 (2010年2月7日)。
- 22) 渡辺悌二 (2010)：国際山の日と2002年国際山岳年を越えて、地理学論集、第85号、69-74。
- 23) 渡辺悌二 (2011)：国際山岳年プラス10に向けて、森林技術、第826号、22-27。
- 24) 江本嘉伸 (2010)：「国際山岳年」と「山の日」、「山の日」制定協議会 プレスリリース資料、(<http://outdoor.geocities.jp/takefumount/osirase/pdf/yamanohi.pdf>) (2013年10月14日)。
- 25) 成川隆顕 (2010)：「山の日」をつくろう、山と溪谷、第905号、184-185。
- 26) 「山の日」制定協議会 (2012)：～みんなで山を考えよう～「山の日」ネットワーク東京会議報告書、「山の日」制定協議会、東京。
- 27) 成川隆顕 (2013)：「山の日」祝日制定への新たな展開、(<http://jac.or.jp/info/project/cat29/post->

- 744.html) (2013年10月14日).
- 28) 栃木県山岳団体「山の日」制定連絡協議会 (2013): 『山の日』をつくろう! 栃木集会報告書、栃木県山岳団体「山の日」制定連絡協議会、宇都宮.
- 29) 市川貴大 (2012): 都道府県が実施している“山”や“森”に関する記念日や期間の把握、森林技術、第839号、38-41.
- 30) 井村 仁 (2006): わが国における野外教育の源流を探る、野外教育研究、第10号、85-97.
- 31) 井村 仁 (2006): わが国で初めて用いられた「野外教育」の意味と歴史的背景、野外教育研究、第10号、99-111.
- 32) 井村 仁 (2008): わが国において「野外教育」という用語が初めて使用された時期とその内容について、野外教育研究、第11号、13-27.
- 33) 渡辺悌二 (2008): 登山道の保全と管理、古今書院、東京.
- 34) 林野庁 (2013): 平成25年度「木づかい推進月間」について、(<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/riyou/130927.html>) (2013年10月14日).
- 35) 林野庁 (2013): 平成25年版 森林・林業白書、全国林業改良普及協会、東京.
- 36) 市川貴大 (2014): これまでの「山の日」に関連する動向について、森林技術、第864号、29-32.
- 37) 飼手勇介 (2014): 祝日: 8月11日を「山の日」に 議員立法で16年から、毎日新聞web版 (2014年2月14日).
- 38) 衛藤征士郎・丸川珠代・務台俊介 (2014): いま「山の日」制定、書苑新社、東京.
- 39) 宮川浩・小澤一雄 (2008): 中高年登山・百名山ブームと登山道整備の課題、登山道の保全と管理、古今書院、東京、164-172.
- 40) 市川貴大 (2013): 高原山登山道の倒木処理とササ刈り、森林技術、第860号、26-29.
- (平成25年10月14日受付)  
(平成26年3月31日受理)